

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風
公演団体名	東京演劇集団 風

内容

王子さまを歌や台詞で励ます「クライマックス場面の事前練習」を共演者と共に行います。

作品の作者、あらすじや背景、子供たちが参加するシーンを丁寧に説明したのち、練習を行います。俳優がクライマックスの一場面を演じ、俳優の声と身振りがつくりだす演劇空間のなかで、子供たちも実演をしながら、演劇とはなにか、演じるとはどういうことかを体感するワークショップです。

また、実施前後の時間や休憩時間には、俳優・スタッフとの交流や、道具・機材の体験を行う機会をなるべく設けています。必要な場合は、子供たち用のフェイスシールドの送付、出演者・スタッフのマウスシールドの着用を行います。

実施の流れ

【 作品解説 】

演出家から『星の王子さま』のあらすじや、参加場面の内容を説明します。

【 俳優との実演練習 】

- ① 俳優の実演とともに〈立つ・星を見上げる・座る〉動きを練習
- ② 王子とかけあいで歌うソング「ぼくは行く」に取り組む(手話歌を指導)
- ③ 旅立つ王子に呼びかけるセリフを、俳優と練習(手話と身体での表現)

【 通し稽古 】

本番通りに俳優たちが共演場면을演技し、練習した〈動き・手話歌・手話でのセリフ〉を組み合わせて、クライマックスを実際につくってみます。



ワークショップに向けた打合せの実施

ワークショップ実施前に開催校に出向き、事前に先生方と打合せを行います。

上演作品のあらすじ・参加共演の内容をお話ししながら、先生方の要望を伺い、学校ごとにプログラムやスケジュールを提案・相談します。

タイムスケジュール（標準）

ワークショップ準備 約 30 分	ワークショップ 1 時間 30 分 (授業 2 時限分/休憩 10 分) ・作品解説 ・実演練習 ・役者、スタッフとの交流	本番に向けた先生方との 打ち合わせ 30 分～1 時間
---------------------	--	-----------------------------------

※全校生徒が一堂に会することが難しい場合は、先生方と相談し、全校児童生徒が参加・体験できるよう、以下の提案を行います。

- (1) 実施時間の短縮（90 分 → 60 分・45 分）
- (2) 分散開催（全学年 → 高学年・低学年に分散など）

※ワークショップ実施時期が感染拡大時期と重なってしまった場合は、本公演当日ワークショップを提案します。

※「歌う」「大きい声を出す」ことが難しい場合は、歌・セリフの実演場面に変更を加え、「手話」での表現を提案します。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

演出(浅野佳成)、俳優(王子さま役:白根有子/花役:渋谷愛/へび役:栗山友彦)、スタッフ
※バリアフリー上演に向けて、手話通訳が 1 名同行する場合もあります。

—————計5名

学校における事前指導

子供たちが俳優と一緒に「やってみることを大切にしたいと考えています。そのため、事前の指導は必要ありません。

○演劇に参加するために必要な資料(台本・楽譜・音楽CD・手話歌ビデオ)を事前打合せの際にお渡しします。また、ワークショップ実施に合わせて、『星の王子さま』の上演台本を、全校児童生徒・教員全員分をお送りします。児童生徒への台本の配付や音楽CDの放送など、学校それぞれの取り組みに活かしていただければと思います。

○ワークショップに参加できない合同開催校や、本公演当日にワークショップを実施する場合も、必要な資料(児童生徒配布用上演台本や楽譜・音楽 CD)を事前にお渡しします。

○ワークショップ終了後、担当の先生方と打合せを行い、本番までの取り組みや、本番当日のスケジュールなどを提案します。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 東京演劇集団 風
公演団体名	東京演劇集団 風

演目

全校児童生徒でつくるミュージカル

『星の王子さま』

原作：サン＝テグジュペリ 翻訳：内藤濯

構成・演出：浅野佳成 作曲：八幡茂

(1幕50分・休憩10分・2幕50分)

ちっぽけな星でたった一輪の花と暮らしている小さな王子さま

ある時、王子さまは花と喧嘩をして星をめぐる旅に出ます

最後にやってきたのは地球

砂漠で、飛行士とキツネに会った王子さまは

友だち かけがえのないもの はかないもの とは何かを知り、成長していきます

そして一年が経ったある日、王子さまは地球で出会った友だちに別れを告げて

花のために自分の星へ帰ることを決心します

たったひとりで力強く生きる王子さまが、今を生きる私たちに語りかけます

「かんじんなものは目にはみえない 心で見なければ」と

地球と人間の美しさを描いたファンタジー



※学校のご希望に沿って、舞台手話通訳・日本語字幕・音声ガイドなどを作品に組み込んだ
バリアフリー演出での上演も可能です。

※ 上演時間について

長時間大勢が集まることが難しい場合は、上演時間の短縮・休憩時間の延長を提案します。(1 幕 50 分 → 45 分 休憩 10 分 → 15 分 2 幕 50 分 → 45 分)

※ 場内の換気・温度調整について

体育館内の温度湿度を一定に保ちつつ、換気を徹底します。そのための送風機・ストーブなどは劇団が持参します。

※ 体調に不安があり、みんなと一緒に鑑賞することが難しい子について

大勢で一カ所に集まることが体調面・精神面で難しい児童生徒がいた場合は、先生方と協力し、別室にて体育館の様子を鑑賞できる「リモートライブ配信」を行います。



派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者 : 9 名
スタッフ : 12 名
合計 : 21 名

※バリアフリーの場合

出演者 11 名、スタッフ 13 名、合計 24 名

タイムスケジュール（標準）

前日											舞台設営 (道具搬入)
時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
当日	舞台設営		リハーサル バックステージツアー		本番 (100 分)		舞台撤去 (2 時間)				

※舞台設営にかかる時間は、体育館によって異なります。上記は基本的なタイムスケジュールです。打合せをしながら、先生方と一緒にスケジュールを決めていきます。

また、会館での実施では、前日の設営が必要ない場合もあります。

※分散開催の場合は、基本的に同日の午前・午後での公演を提案します。

実施校への協力依頼人員

搬入時や舞台設営・撤去の際に、お手伝いをお願いすることは基本的にありません。



※体育館に設営した『星の王子さま』の舞台

演目解説

東京演劇集団風の『星の王子さま』



1943年、第二次世界大戦の最中、作者サン＝テグジュペリはこの作品を残しました。時代が流れるなかで、世界中の多くの人々を励ましている作品です。東京演劇集団風の『星の王子さま』は、物語に散りばめられた「ものごとの奥深くにある真実、生きることの尊さを心の目で見してほしい」というメッセージを、ことばや身振り、音楽などでシンプルに描いています。すべての人を優しく劇世界に導き、観客に想像するよろこびを呼び覚ます作品です。

バリアフリー版での上演

学校からの要望があれば、舞台手話通訳、音声ガイド、日本語字幕を付したバリアフリー版での上演も可能です。

視覚や聴覚に障害のある子、知的や肢体不自由などの障害のある子、さらに見える・聞こえる子供たち、先生方・保護者の方々も含めた学校の全員が一緒に楽しめる演劇づくりを目指しています。



※背景の真ん中に日本語字幕が表示されます。
舞台手話通訳(舞台中央)がセリフを手話で表現します。
音声ガイドはライブで行われ、会場全体に流れます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

全校の児童生徒が『星の王子さま』と一緒に作る演技者・共演者となります。
演劇を間近に見ることにより、個々に湧き上がってくる感情や願い。それらを自分なりに表現して、俳優・スタッフと共に物語のクライマックスをつくりあげます。

全校の子供たちの勇気と希望がつくる『星の王子さま』のクライマックス



全校児童生徒が
「動き」「歌」「台詞」で共演します。
※ワークショップで事前練習を行います。
「発声」が難しい場合は、手話歌・手話
での参加・共演を提案します。

最上級生が未来への決意を込めて歌う「ぼくの旅はつづく」



最上級生が舞台に登場、俳優と「手話歌」で
共演して、1幕ラストシーンをつくります。

最上級生全員での舞台上での参加が難しい
場合は、客席での参加を提案します。それが
難しい場合は、先生方の参加も提案します。

※公演当日に本番通りの舞台・照明・音響と
合わせて、俳優・スタッフとのリハーサルを
行います。

先生の出演に客席も盛り上がる「星めぐり」のシーン



星の住人「呑み助」「地理学者」の役で、先生たちの参加を提案しています。
※公演当日にリハーサルを行います。必要な場合はフェイスシールドも用意します。

児童生徒とのふれあい

本番の前後には、体育館に出来上がる「劇場空間」の探検や出演者、スタッフとの交流を行います。人と人が協力して創り出す「演劇」の面白さや楽しさ、「夢・あこがれ」に子どもたちが出会う機会となるよう、ふれあい・対話の時間を大切にしています。

先生方・子どもたちが安心して体験できるよう、複数回の実施や消毒の徹底、マスク・フェイスシールド、手袋の配付などを、先生方と相談しながら実施します。何よりも子どもたちが自身の感性を発揮できる安全・安心な環境を創り出すことを心がけています。

「劇場」をまるごと探検

本番に向けて子供たちの期待が膨らむよう、多角的な演劇体験を提案しています。キャリア教育の一環として、俳優や各専門スタッフとの質疑応答、座談会を行うこともあります。



「こんなことをしてみたい！」「こんな体験をさせたい！」という先生方の声をもとに、さまざまな創意工夫をこらしながら、子供たちと先生のかけがえのない思い出となるよう、一校一校のプログラムを作成します。

